『広報たかだ』第68号　1957年(昭和32年)4月1日

## 随想

## メートル法

XYZ

洋服の生地は何ヤールいくら、ワイシャツの首まわりは何インチ何尺何寸で仕立てた和服に着かえて、何合、何升で量った酒をのむ坐る部屋は何間四方が何畳とやらで、食べる牛肉は何匁で勘定する手あぶりの炭は何貫匁と称し、ガスストーブなら何立方メートルとくる。複雑にして怪奇をきわめているのが、われらの身のまわりをとりまく度量衡というものだ。これを官公庁は今年の四月から、一般は三十四年一月一日からメートル法に統一されてしまう訳である。

ところで、このメートル法はアメリカ、ドイツを始め十八ケ国で条約に締結されたのが一八七五年三月二十日、アダやおろそかに忘れられない記念日だ。フランスにタレーランという気の短い政治家がいて物の勘定のやゝこしいのに業をにやし、すべての勘定を世界一律に統一したらよかろうと議会に提案した。そこは物わかりがよく、文化的な国だから早速お取あげになり、まず長さの単位から決めてかゝることになり、地球の子午線に沿う円周を測つて、その四千万分の一を一単位にしようということになり、七年かゝつて出来上つたのが一メートルという長さである。

▽……△

タレーランがこの提案を出してから百六十年ばかり前になる思えば長い道のりだが、一体この長さは何というメートル法で測つたら良いのか知らん。

---

『広報たかだ』第80号　1958年(昭和33年)4月1日

明年一月から実施されるメートル法を前に、諏訪地区では各部落ごとに中、小学校の先生や、公民館職員らを講師に熱心な指導会を開き部落民から感謝されている。

一例をあげると「キロキロとデカけたメートルが、デシに追われて「センチミリミリ」とか「好きなお酒は一升一・八リットル」などの興味ある表現で自然に覚えさせたり、秤やマスを持ちこんで実際にはからせたり、或いは換算表を見せて平易に教えこんでおり、頭の堅いお爺さんやお祖母さんもつい釣りこまれて談笑のうちに覚えこむと云つた調子である。

もちろん講師さんたちの苦労は大変であるが、「これで家へ帰つて子供や孫に馬鹿にされない」と大喜びで帰る住民の喜びを考えると苦労も楽しみですと講師さんたちは連日連夜部落を廻つている。（写真は同講習会の実況）

## 興味ある表現で

### メートル法講習会

---

広報たかだ』第81号　1958年(昭和33年)5月1日

## メートル法の勉強!!

### いますぐ始めましょう

御承知の通り明年一月からメートル法が完全実施となりますが、市ではこれが準備のため、来る六月から一般市民にメートル法の使用をおすゝめして早く慣れるよう種々計画しております。皆様も是非メートル法の勉強をお願いします。

M早くなれましょうメートル法W

M明日からと云はず、今日からメートル法W

Mかあさん買物メートル法W

M坊やと勉強メートル法W

(昭和三十四年一月一日施行)